CASBEE®熊本《新築》【 性能表示 】

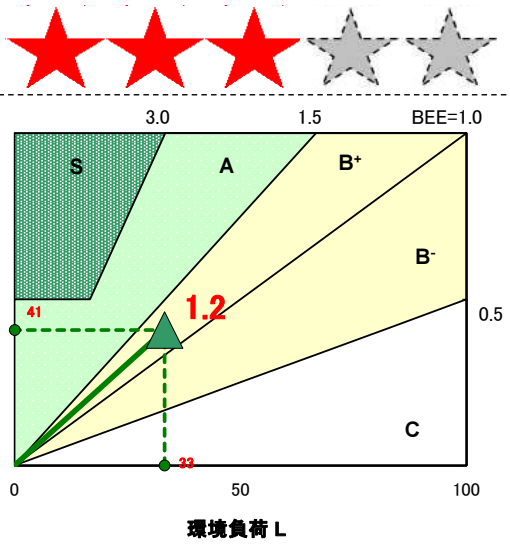
1-1 建物概要			
建物名称	（仮称）鈴与熊本物流センター2号棟	階数	地上4階
建設地	熊本県菊池郡大津町大字杉水字水迫3340番2、3341番1、3341番2	構造	S造
用途地域等	準工業	平均居住人員	40 人
省エネ：地域区分	6地域	年間使用時間	2,400 時間/年
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2027年12月 竣工	評価の実施日	2026年9月1日
敷地面積	6,163 ㎡	作成者	鈴与建設 大場優
建築面積	3,510 ㎡	確認日	
延床面積	11,419 ㎡	確認者	

1-2 外観



2 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率（BEEランク&チャート）



BEE = 1.2

■BEE（環境効率）= Q（環境品質） / L（環境負荷）

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B^+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B^-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO_2排出性能（ランク表示）



排出率

80%

■ライフサイクルCO_2 排出性能評価基準

判定値（排出率）	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

3 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

77

	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	90.7
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	50.0
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	75.0
【重点事項4】 循環型社会の実現	78.0

■熊本県重点評価基準

判定値（評価点）	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版　使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要

建物名称	(仮称)鈴与熊本物流センター2号棟	階数	地上4階
建設地	熊本県菊池郡大津町大字杉水字水迫3340番2、3341番1、3341番2	構造	S造
用途地域等	準工業	平均居住人員	40 人
省エネ:地域区分	6地域	年間使用時間	2,400 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2027年12月　竣工	評価の実施日	2026年9月1日
敷地面積	6,163 ㎡	作成者	鈴与建設 大場優
建築面積	3,510 ㎡	確認日	
延床面積	11,419 ㎡	確認者	

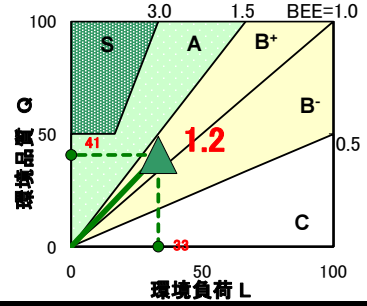
1-2 外観



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

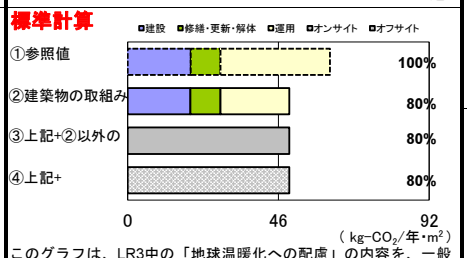
BEE =1.2

S: ★★★★★　A: ★★★★　B+: ★★★　B-: ★★　C: ★



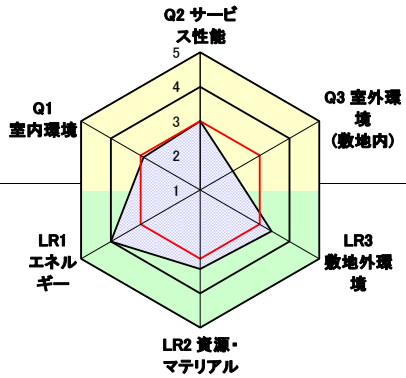
2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

30%: ☆☆☆☆☆　60%: ☆☆☆☆　80%: ☆☆☆　100%: ☆☆　100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

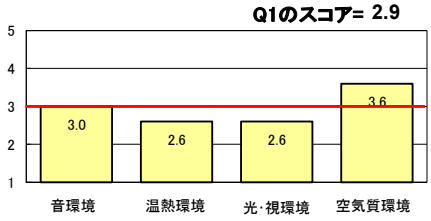
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



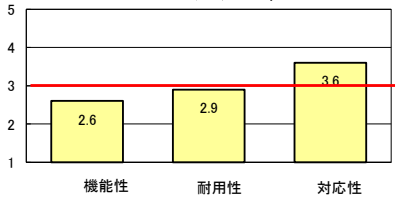
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　Q のスコア= 2.6

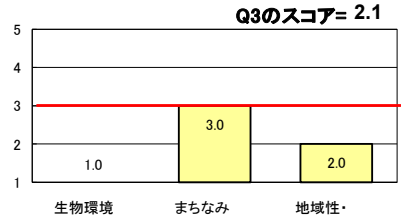
Q1 室内環境　Q1のスコア= 2.9



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 3.0

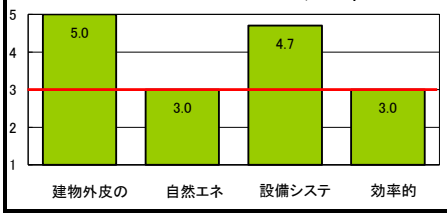


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 2.1

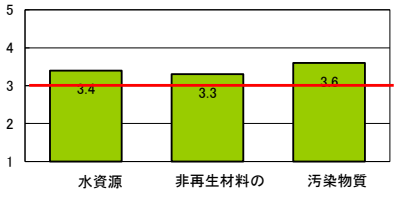


LR 環境負荷低減性　LR のスコア= 3.6

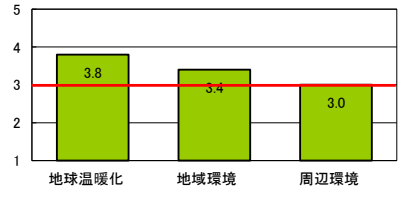
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 4.0



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.3



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=3.4



3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価

評価点＝ 77

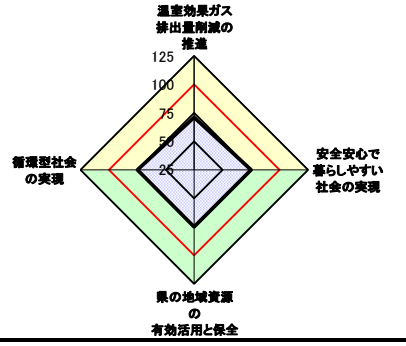
重点事項1:温室効果ガス排出量削減の推進　90.7

重点事項2:安全安心で暮らしやすい社会の実現　50.0

重点事項3:県の地域資源の有効活用と保全　75.0

重点事項4:循環型社会の実現　78.0

重点事項の評価(レーダーチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
■LCCO2の算定条件等については、「LCCO2算定条件シート」を参照されたい

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)鈴与熊本物流センター2号棟

評価点が3超の項目　　水色セル欄に数値やコメントを記入
⇒Q1～Q3シートやLR1～LR3シートにおける採点の根拠に倣って、要旨を記入してください

スコアシート　　実施設計段階

配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								2.6
Q1 室内環境					0.31		-	2.9
1 音環境				3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0	-	
1.2 遮音				3.0	0.40	-	-	
	1	開口部遮音性能		3.0	1.00	3.0	-	
	2	界壁遮音性能		-	-	3.0	-	
	3	界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
	4	界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境				2.6	0.35	-	-	2.6
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-	
	1	室温		3.0	0.38	3.0	-	
	2	外皮性能		3.0	0.25	3.0	-	
	3	ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御				1.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境				2.6	0.25	-	-	2.6
3.1 昼光利用				1.8	0.30	-	-	
	1	昼光率		1.0	0.60	3.0	-	
	2	方位別開口		-	-	3.0	-	
	3	昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-	
	1	昼光制御		3.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境				3.6	0.25	-	-	3.6
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-	
	1	化学汚染物質	天井裏を含めほぼ全面的にF☆☆☆☆を使用	4.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気				3.3	0.30	-	-	
	1	換気量		3.0	0.33	3.0	-	
	2	自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-	
	3	取り入れ外気への配慮	給気は、各種排気と同方位であるが6m以上離れている	4.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-	
	1	CO_2の監視		3.0	0.50	-	-	
	2	喫煙の制御		3.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能				–	0.30	-	-	3.0
1 機能性				2.6	0.40	-	-	2.6
1.1 機能性・使いやすさ				1.3	0.40	-	-	
	1	広さ・収納性		1.0	0.33	3.0	-	
	2	高度情報通信設備対応		2.0	0.33	3.0	-	
	3	バリアフリー計画		1.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性				4.0	0.30	-	-	
	1	広さ感・景観	天井高:2.7m以上	4.0	0.33	3.0	-	
	2	リフレッシュスペース	リフレッシュスペース:1%以上、自動販売機を設置	5.0	0.33	-	-	
	3	内装計画		3.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-	
	1	維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
	2	維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	
	1	耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
	2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				2.8	0.30	-	-	
	1	躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
	6	主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性				3.2	0.20	-	-	
	1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
	3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法	耐震クラス:Aクラス	4.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性				**3.6**	0.30	-	-	**3.6**
3.1 空間のゆとり				**5.0**	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高：3.9m以上		5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率：0.1未満		5.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				**3.0**	0.30	**3.0**	-	
3.3 設備の更新性				**3.0**	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境（敷地内）				―	**0.39**	-	-	**2.1**
1 生物環境の保全と創出				**1.0**	0.30	-	-	**1.0**
2 まちなみ・景観への配慮				**3.0**	0.40	-	-	**3.0**
3 地域性・アメニティへの配慮				**2.0**	0.30	-	-	**2.0**
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				**2.0**	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				**2.0**	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-		-	**3.6**
LR1 エネルギー				―	**0.40**	-	-	**4.0**
1 建物外皮の熱負荷抑制		断熱性能の高い躯体構成及び建築材を使用		**5.0**	0.01	-	-	**5.0**
2 自然エネルギー利用				**3.0**	0.12	-	-	**3.0**
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.63		**4.7**	0.62	-	-	**4.7**
4 効率的運用				**3.0**	0.25	-	-	**3.0**
集合住宅以外の評価				**3.0**	1.00	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				―	**0.30**	-	-	**3.3**
1 水資源保護				**3.4**	0.20	-	-	**3.4**
1.1 節水		節水型便器を採用		**4.0**	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				**3.0**	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				**3.3**	0.60	-	-	**3.3**
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		―		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		再生クラッシャーラン		3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		LGS工法、OAフロアの採用		5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				**3.6**	0.20	-	-	**3.6**
3.1 有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含まない材料を確認		**4.0**	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				**3.5**	0.70	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	
2	発泡剤（断熱材等）	外壁材 ネオマフォームODP＝0、GWP=11		4.0	0.50	-	-	
3	冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				―	**0.30**	-	-	**3.4**
1 地球温暖化への配慮		高効率な設備機器の採用によるCO2の削減		**3.8**	0.33	-	-	**3.8**
2 地域環境への配慮				**3.4**	0.33	-	-	**3.4**
2.1 大気汚染防止		燃焼機器の設置は無い		**5.0**	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				**3.0**	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				**2.7**	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車台数を確保し車両出入時の混雑を避けた計画		4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				**3.0**	0.33	-	-	**3.0**
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				**3.0**	0.40	-	-	
1	騒音			3.0	1.00	-	-	
2	振動			-	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				**3.0**	0.40	-	-	
1	風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制			3.0	-	-		
3	日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				**3.0**	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策			3.0	0.30	-	-	

■ 環境関連の配慮事項

（仮称）鈴与熊本物流センター2号棟

印刷：モノクロ
設定済み

・適宜、箇条書き等で記入してください。

・キーボード操作：改行の際は【Alt】キー＆【Enter】キーで次の行に進みます。

	計画上の配慮事項　※必ず、何らかのコメントを記入してください。
総合	・工業地に倉庫を4階にて計画しました。貸倉庫として使用します。 ・外皮性能を高め、高効率な設備の採用、節水などにより、地球環境に配慮した計画とした。
Q1 室内環境	・ほぼ全面的にF☆☆☆☆の建材を使用し、室内の良好な空気質環境の確保を図っている。
Q2 サービス性能	・将来の用途変更の可能性等を考慮し、建物の階高、空間の形状・自由さのゆとりを計画している。
Q3 室外環境 （敷地内）	・敷地内緑化により、緑の量の確保に配慮している。
LR1 エネルギー	・外皮性能を高め、効率のよい空調機器・全面的なLED照明の導入など、高効率な設備システムを導入することで省エネルギー化を図っている。
LR2 資源・マテリアル	・主要水栓は節水器具とし、節水便器を使用する等水資源の保護に配慮している。
LR3 敷地外環境	・周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画としている。 ・燃焼機器の設置をなくし、大気汚染防止に配慮している。
その他	

熊本県重点評価結果 スコアシート　※手動入力は不要	実施設計段階
建物名称	*(仮称)鈴与熊本物流センター2号棟*

■評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)　　■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版

熊本県重点評価結果				総合評価点		77
重点事項				評価点	重点事項重み係数	評価配点
	重点項目(配慮項目)	スコア	重み係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				90.7	0.40	36.28
	Q1-2.1.2 外皮性能	*3.0*	0.10			
	Q1-3.1.3 昼光利用設備	*3.0*	0.10			
	Q1-3.2.1 昼光制御	*3.0*	0.10			
	LR1-1 建物外皮の熱負荷抑制	*5.0*	0.01			
	LR1-2 自然エネルギー利用	*3.0*	0.20			
	LR1-3 設備システムの高効率化	*4.7*	0.30			
	LR2-2.1 材料使用量の削減	*3.0*	0.10			
	LR3-2.3.3 交通負荷抑制	*4.0*	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				50	0.20	10.00
	Q2-1.1.3 バリアフリー計画	*1.0*	0.25			
	Q2-2.1.1 耐震性	*3.0*	0.25			
	Q3-1 生物環境の保全と創出	*1.0*	0.15			
	Q3-3 地域性・アメニティへの配慮	*2.0*	0.20			
	LR3-2.2 温熱環境悪化の改善	*3.0*	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
	Q3-2 まちなみ・景観への配慮	*3.0*	0.20			
	LR2-1.1 節水	*4.0*	0.30			
	LR2-1.2.1 雨水利用システム導入	*3.0*	0.20			
	LR2-2.5 持続可能な森林から産出された木材	*2.0*	0.30			
④ 循環型社会の実現				78	0.20	15.60
	Q2-2.2 部品・部材の耐用年数	*2.8*	0.30			
	Q2-3 対応性・更新性	*3.6*	0.30			
	LR2-2.2 既存建築躯体等の継続使用	*3.0*	0.10			
	LR2-2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	*3.0*	0.15			
	LR2-2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	*3.0*	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点　＝　(各重点事項の評価点×各重点事項の重み係数)の総和

※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点　＝　(各重点項目のスコア×各重点項目の重み係数)の総和×(5/4)×20

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4)×20：スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数